

令和3年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における

北九州市立 篠崎 中学校の結果分析と今後の取組について

スポーツ庁による「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」について、令和3年6～7月に、2年生を対象として、「運動習慣等」についての調査を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

本結果は、学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。運動習慣は、学校のみでなく、家庭で運動を一緒に「する・みる・話す」ことが大切です。本校では、運動習慣の確立と授業の充実により、総合的に体力の向上を目指しています。ご家庭でも運動習慣の確立に向けた取組の充実をお願いします。

※ 本年度、本市においては「体力・運動能力」についての《50m走》・《ハンドボール投げ》のみ実施しました。

1. 全国体力・運動能力、運動習慣等調査の目的

- (1) 国が全国的な子供の体力の状況を把握・分析することにより、子供の体力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会が自らの子供の体力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、子供の体力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各学校が各児童生徒の体力や運動習慣、生活習慣等を把握し、学校における体育・健康に関する指導などの改善に役立てる。

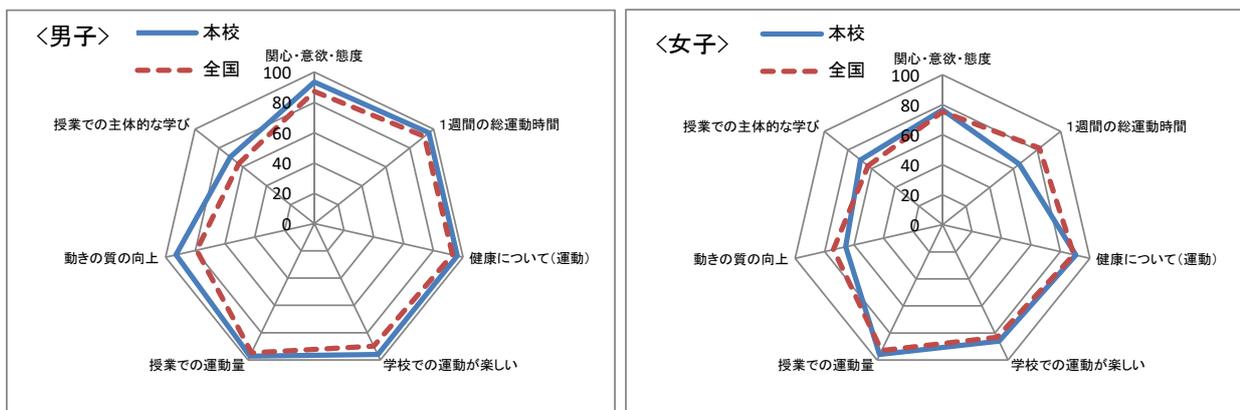
2. 本市における調査内容

- (1) 質問紙調査

運動習慣、生活習慣等に関する質問紙調査

3. 運動習慣や生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査レーダーチャート



質問紙調査の結果分析

全体としては、「授業での主体的な学び」が低かった。モデルとなる動きを示す場面や自身の課題を確認する場面が少なかった。それにより、女子は授業での運動量は十分であるにも関わらず、動きの質の向上にまで至っていないという結果になってしまった。また、女子に関しては1週間の総運動時間が著しく低く、運動習慣の形成がされていないことがわかった。

4. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科(授業)に関する取組(全校で・学年で)

生徒が見通しをもって授業に臨める環境整備や学びの状況に応じて確認ができる資料提供を行っていく。授業の展開も、前半は一斉学習を行うが、中盤から後半にかけては個別学習やグループ学習により、個の能力や課題に応じた学びの提供ができるようにしていきたい。

② 運動習慣等に関する取組(1校1取組)

保健体育の授業はもちろん、総合的な学習の時間等を利用してオリンピックやサッカーW杯についての学習を通して、運動やスポーツの興味関心を高める。また、健康と運動との密接な関わりについての指導を継続的に行い、運動習慣の形成を図っていく。